

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

1. 実施した計画の基本的な事項

(1) 基礎情報

ア. 対象地域

構成市町村等名	吹田市					
地域内総人口(人)	384,302					
地域総面積(km <sup>2</sup> )	36.09km <sup>2</sup>					
地域の要件	人口					
地域の要件がその他の場合は具体的に記載	-					
構成市町村に一部事務組合等が含まれている場合、当該組合の状況						
組合名称(設立年月日)	-					
組合を構成する市町村	-					

イ. 計画実施期間

開始年月日	平成31年4月1日
終了年月日	令和6年3月31日
計画期間	5年

(2) 対象地域における取組みに関する事項

ア. ごみ処理の広域化・施設の集約化の実施状況

<p>これまで吹田市は、各市町の施設規模・整備時期等の状況や交通アクセスなどから、廃棄物処理施設を単独で整備し処理を行ってきた。今後は、近隣市町である旧北大阪ブロック(豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町)内での情報交換などを行い、周辺市町と協力して広域化・集約化に向けての検討を進めていくことが重要と考えられることから、次期ごみ焼却施設の建て替えにおいては、近隣市との広域処理に向けての可能性について調査研究を実施するよう考えている。</p>	
確認した都道府県の広域化・集約化計画の名称	大阪府ごみ処理広域化計画

イ. プラスチック資源の分別収集及び再商品化に係る実施内容

実施済の場合	実施地域	-
	実施年度	-
	実施方法	-
	上記が④もしくは⑤の場合、その詳細	-
実施しない地域		-
プラ要件化対象事業の実施		-
備考	ペットボトルは市内全域において拠点回収している。しかし、ペットボトル以外のプラスチックについては焼却処理している。	

ウ. 対象地域における一般廃棄物処理有料化の実施状況

有料化導入状況	④その他(詳細は下記)
上記が④の場合、その詳細	事業系ごみは10kg当たり105円、生活系ごみの持込ごみは10kg当たり70円の処理手数料を導入している。
未導入の構成市町村名	-
有料化導入に向けた検討状況 ※全ての構成市町村で導入済の場合は記載不要	事業系ごみ処理手数料については、処理原価に見合った手数料となるよう段階的に見直しを行っている。また、生活系ごみの持込ごみについては有料化しているが、今後は収集ごみの有料化についても検討していく。

エ. 対象地域における災害廃棄物処理計画の策定状況

策定状況	①構成市全てで策定済
策定済の構成市(計画の名称)	吹田市災害廃棄物処理計画
未策定の構成市(策定予定時期)	-
備考	-

2 目標の達成状況

(一般廃棄物の処理)

減量化、再生利用に関する指標		現状	目標	実績	
		平成29年度	令和6年度	令和6年度	実績/目標
①総人口(人)		370,072	385,852	384,302	
排出量	事業系ごみ排出量(トン)	35,698	31,721	32,878	71%
	生活系ごみ排出量(トン)	69,932	74,441	69,248	-15%
	1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	473	459	436	264%
	その他排出量(集団回収等)	8,357	8,282	5,183	4221%
	総排出量(トン)	113,987	114,444	107,309	-1461%
再生利用量	1人1日当たりの排出量(g/人日)	842	813	765	266%
	総資源化量(トン)	18,635	24,548	19,038	40%
最終処分量	総排出量に占める総資源化量の割合(%)	16%	21%	18%	
	埋立最終処分量(トン)	6,128	4,174	3,190	200%
	総排出量に占める埋立最終処分量の割合(%)	5%	4%	3%	
エネルギー回収量	年間の発電電力量(MWH)	51,941	49,997	48,578	
	年間の熱利用量(GJ)	-	-	-	
特記事項					

※ 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)を記載。

(生活排水の処理)

生活排水処理に関する指標		令和〇〇年度現状		令和6年度目標		令和▲▲年度実績	
		人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
処理形態別人口	公共下水道		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!
	農業集落排水施設等		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!
	合併処理浄化槽等		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!
	小計：汚水衛生処理人口	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!
	単独処理浄化槽等		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!
	非水洗化人口		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!
	小計：未処理人口	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!
	合計：総人口	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!	人	#DIV/0!
し尿・汚泥の量	汲取りし尿量						
	浄化槽汚泥量						
	合計		キロリットル		キロリットル		キロリットル

### 3 目標達成に向けた施策状況

目標指標	目標達成への施策状況
ア. 一般廃棄物の排出量に関する事項	事業系ごみ処理手数料については、平成20年4月に10kg当たり45円から70円に、平成24年7月から105円へ処理原価に見合った手数料となるよう段階的に見直しを行っている。また、生活系ごみについては、持込ごみについて平成24年10月から10kg当たり70円、大型複雑ごみを含む転出ごみや臨時ごみは車両種別による料金を設定し、なお申込制としている。今後はごみ排出量の発生抑制、ごみ減量の努力に応じた費用負担の公平性の観点から、収集ごみの有料化についても検討していく。 また、事業者向けに啓発活動・情報提供活動の充実を図り、ごみ排出量の削減に努める。
イ. 一般廃棄物の再生利用量に関する事項	ごみ中の資源回収については、昭和63年に全国に先駆けて5種分別の導入に着手し、平成4年全市に普及させるとともに、集団回収の育成に努めており、平成20年には、分別排出徹底のため「資源ごみ」を8分別し12種分別とした。 なお、収集された「資源ごみ」（新聞、雑誌類、段ボール、古布、かん、びん、牛乳パック、ペットボトル）については、手選別により、細かく品種分けを実施した後、売却するなど再生利用の推進に努めている。 さらに、回収資源の再資源化を促進するため、選別後の資源（新聞、雑誌類、段ボール、古布、かん、びん、牛乳パック、圧縮処理したペットボトル）及び吹田市資源循環エネルギーセンターで発生した灰溶融スラグの保管を目的として、ストックヤードの活用を図っている。
ウ. 一般廃棄物の最終処分量に関する事項	最終処分量を減少するために、ごみの減量化はもとより、令和5年度からは民間事業者と灰溶融スラグの販売委託を締結し、スラグ全量の資源化を図るなど、最終処分量の減少に努めた。 なお、灰中鉄分の回収や山元還元も実施し、最終処分量の減少に努めた。
エ. 一般廃棄物のエネルギー回収量に関する事項	吹田市資源循環エネルギーセンターでは、廃熱利用を進めるため、高温・高圧ボイラ・タービン設備により発電を実施している。発電した電力は、本施設はもとより同一敷地内施設（破砕選別工場・資源リサイクルセンター）の工場の動力、空調や照明等に利用している。
オ. 処理形態別人口に関する事項	—
カ. し尿・汚泥の量に関する事項	—
その他	—

### 4 目標の達成状況に関する評価

<p>【ア. 一般廃棄物の排出量に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業系ごみ排出量の令和6年度実績値は32,878トンであり、令和6年度目標値31,721トンを達成できなかった。</li> <li>未達成の要因としてコロナ禍後の事業活動回復に伴い、1事業者当たりの削減量が目標に到達しなかったことが考えられる。その結果、事業系ごみ総排出量の削減目標を達成できなかった。</li> <li>生活系ごみ排出量の令和6年度実績値は69,248トンであり、令和6年度目標値74,441トンを達成できた。</li> <li>ごみ減量化の推進に向けて実施した啓発活動の結果、1人1日当たりの生活系ごみ排出量が減少したことにより、目標が達成できたと考えられる。</li> <li>その他排出量（集団回収等）の令和6年度実績値は5,183トンであり、新聞の発行部数の減少などの影響を受けたと考えられる。</li> <li>総排出量の令和6年度実績値は107,309トンであり、令和6年度目標値114,444トンを達成できた。</li> <li>ごみ減量化の推進に向けて実施した啓発活動の結果、1人1日当たりの家庭系ごみ排出量の減少に伴い、総排出量が減少したことにより、目標を達成できたと考えられる。</li> </ul> <p>【イ. 一般廃棄物の再生利用量に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総資源化量の令和6年度実績値は19,038トンであり、令和6年度目標値24,548トンを達成できなかった。</li> <li>物価高騰による市民の消費活動への影響や、市のごみ減量化の推進に向けて実施した啓発活動の結果、ごみ焼却量の減少に伴い、溶融スラグや溶融メタルの発生量が減少したこと、集団回収量が減少したことにより、目標を達成できなかったと考えられる。</li> </ul> <p>【ウ. 一般廃棄物の最終処分量に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋立最終処分量の令和6年度実績値は3,190トンであり、令和6年度目標値4,174トンを達成できた。</li> <li>物価高騰による市民の消費活動への影響や、市のごみ減量化の推進に向けて実施した啓発活動等により、ごみ焼却量が減少し、溶融スラグの発生量が減少しました。また、令和5年度から溶融スラグ全量の資源化を図ることができたことにより、目標を達成できたと考えられる。</li> </ul> <p>【エ. 一般廃棄物のエネルギー回収量に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間の発電電力量は、令和6年度実績値は48,578MWhであり、令和6年度目標値49,997MWhに到達していないが、ごみの総排出量（1トン当たり）における発電量で比較すると、令和6年度実績値は0.45 MWh/トンで、令和6年度目標値の0.44MWh/トンと、エネルギー回収量が増加している。</li> <li>また、ごみ1トン当たりの発電量はほぼ一定であり、発電によるエネルギー回収の効果はあったものと考えている。</li> </ul>
--

#### （都道府県知事の所見）

<p>【ア】【イ】【ウ】【エ】に関して、目標を達成できていない項目も複数みられる。しかし、目標値まであと一步の項目が多くを占めるため実績値は概ね目標値に到達していると思料する。目標値に到達しなかった項目については、今後も吹田市が継続的な施策を実施し、目標を達成することを期待する。</p>
--

※令和6年3月31日までに承認された地域計画については、なお従前の様式にて提出できるものとする。